

いわき地域環境科学会会報



ふいーるど

FIELD No.133

< 目次 >

【報告】

- ★ 第30回発表会..... 1
- ★ NPO法人いわき環境研究室 3
- ★ いわき自然エネルギー研究会の動き..... 4

【事務局から】

- ★ 平成31年1月～2月事務局会議報告..... 5

【会員の動きから】

- ★ 会員の活躍状況..... 6

【リレーエッセイ】

- ★ 多様な学習背景をもつ大学生への環境に関する授業での取り組み..... 6
- ★ マグロ初セリ狂騒曲..... 8

【報告】 第30回 発表会 開催報告

去る1月19日（土）午後1時30分から、いわき市常磐西郷町にあるパルシステム福島「みんなの交流館」において、当会の創立30周年記念事業の一環として「第30回発表会」を開催しました。参加者は約30名でした。

発表会は諸橋会長の挨拶で始まり、第一部の自由テーマによる発表、休憩をはさんで第二部の設定テーマ「いわき地域の環境科学遺産」の発表と続きました。

第一部の自由テーマによる発表は、平川副会長の座長で行われました。ここでは、福島高専の学生が卒業研究の中で取り組んでいる研究の紹介やいわき自然エネルギー研究会のこれまでの活動報告などをいただきました。第二部の設定テーマによる発表では、佐藤事務局次長の座長による進行のもと、30周年記念事業で会員から募った「いわきの環境



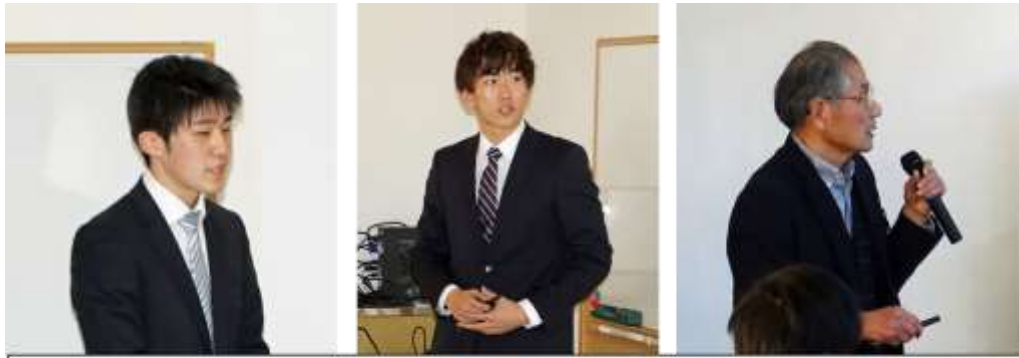
開会挨拶を述べる諸橋会長

科学遺産」について、30周年記念本に掲載された場所に関する説明を各推薦者の皆さんにさせていただきました。発表会終了後は、発表会場で和やかに懇親会を開催しました。

当日ご発表いただいた皆様、聴講いただき活発な討議に加わっていただいた皆様に感謝いたします。

自由テーマによる発表

- ① 「小水力発電装置における発電効率の向上に関する研究」
○鶴沼大仁, 山本敏和, 橋本慎也 (福島高専電気工学科)
- ② 「小型風力発電機における発電出力の向上に関する研究」
○鳴澤大翔, 佐藤善紀, 山本敏和, 橋本慎也 (福島高専電気工学科)
- ③ 「平四小自然エネルギー講座支援活動 ～児童, 教員からのアンケート結果～」
中西恒雄 (いわき地域環境科学学会 会員)



自由テーマによる各発表者(鶴沼さん、鳴澤さん、中西さん)

設定テーマによる発表「いわきの環境科学遺産」

- ④ 「大畑海岸海食崖」
○富田明雄・江尻陽三郎 (いわき地域環境科学学会 会員)
- ⑤ 「八茎鉦山周辺」
富田明雄 (いわき地域環境科学学会 会員)
- ⑥ 「萱手の堤」
江尻陽三郎 (いわき地域環境科学学会 会員)
- ⑦ 「大久川と三森溪谷, 岩出の郷, 三崎前海岸, 湯ノ岳, 芝山」
諸橋健一 (いわき地域環境科学学会 会員)
- ⑧ 「V字谷と植物群落」
吉岡榮一 (いわき地域環境科学学会 会員)



設定テーマによる各発表者(富田さん、江尻さん、諸橋さん、吉岡さん)

◆◆◆NPO法人いわき環境研究室からの報告◆◆◆

(平成31年1月1日～2月28日)

【1】平成30年度 水環境学習支援事業報告書をいわき市に提出しました

いわき市の「H30年度まちづくり担い手育成支援事業」の一環として助成を受けて実施していた「いわき市内小学校・高校での水環境学習支援事業報告書」を提出しました(平成31年1月10日付)。実施内容については、これまでも本報告(NO129,NO130,NO.131,NO.132)で報告して参りました。今年度は、昨年度より1校少ない3校(好間4小、夏井小、いわき海星高)の児童・生徒を対象に実施しました。各学校に隣接する川(夏井川水系、神白川水系)の「源流から河口まで、川を知って楽しもう」をテーマに、各水系の源流探索、中流での水生生物調査、河口でのウナギつかみ、カニ釣り、船遊びまで楽しみ、また各場所での水質調査を行いました。それらを通して、川を身近に感じてことが出来たようです。

報告書(A4版81頁)には、実施状況・アンケート結果・支援者の意見、抱負などを取りまとめてあり、支援講座で使用した資料や参考とした資料も含めたDVDも添付しました。今後、本報告書+DVDを関係する学校やいわき市中央図書館などに配布する予定です。DVDは希望者に配布できます。ご希望の方は、橋本までご連絡下さい。(TEL .0246-22-2621、

E-mail : khashi0823@hotmail.co.jp)



【2】今年度3回目となる理事会を開催しました

平成31年1月29日(火)、平の松本楼にて開催し、理事・監事7名が参加しました。橋本理事長より、事業項目毎に実施状況を説明しました。主な内容は以下のとおりです。

◆自然エネルギーの利活用に関する事業

○学習支援:①平4小・いわき海星高校での自然エネルギー講座、②ふくしま環境教育フォーラム、③夏休み自由研究教室、④PAL展示会、⑤いわきアイネット、⑥たびとほっこり祭への参加。教材の展示や製作を計画通り実施できました。

○設備の充実・維持管理体制の確立に向けて前進している。①諏訪神社設備では「平窪自然塾」に、湯ノ岳山荘関係では「いわきの森に親しむ



会」に移行が進んでいる。田人関係では、今年度「たびとほっこり祭」に参加したことより、今後の展開が期待されます。

◆いわき市から受託した「いわき市内小学校・高校での水環境学習支援事業」を計画通り実施出来、報告書を提出し、受理されたなどの報告を行いました。

◆また、新たにメンバーが2名加入したこともあり、次年度も活動内容の更なる質の向上を目指すことなどを議論しました。

※理事会後、同会場で、懇親会を持ちました。

【3】講演会への参加

「地球温暖化防止活動推進員スキルアップ研修会」(福島県地球温暖化防止活動推進センター主催)が、平成31年2月15日(金)、郡山市中央公民館にて開催され、2名が参加しました。研修会では、秋元智子氏(埼玉県地球温暖化防止活動推進センター事務局長)から「IPCC第48回総会とCOP24に関する報告・説明」として、温暖化防止に係る世界的な動きや埼玉県での取り組み紹介がありました。埼玉県での取組事例の中で、「クールスポットプロジェクト」や「なたねプロジェクト」等、地域性を活かした活動は、今後のいわき地域での活動の参考になると思いました。続いて、鈴木亘氏(奥久慈生物多様性研究会員)からは、「推進員としての活動紹介」として、小学校での支援授業やその結果等について紹介がありました。



温暖化防止に係る世界的な動きや埼玉県での取り組みを紹介する秋元智子氏

【報告】 「いわき自然エネルギー研究会」の動き (第25報)

【1】パルシステム連合会の「地域づくり基金」の助成を戴けることになりました。

予てから、「市民連携による再生可能エネルギー学習施設の拠点づくり」(申請主体:NPO法人いわき環境研究室)として助成申請をしておりましたが、去る1月25日付で、助成を頂けるとの連絡をいただきました(70万円)。

平成31年度は、湯ノ岳山荘設備の一層の充実を図ると共に、他の拠点も含め、長期的に運用できるよう基盤の整備を計っていきたいと思います。

【2】研究会の解散について

会報(NO.131)でも既にお知らせしてありますが、平成30年9月22日の研究会で、本研究会は、「当初の目標が一定程度達成されたことから一旦解散し、新たな体制の下で、事業を発展していくこと」が決定されております。

これまで、当会の運営にご協力戴いた皆様に深く感謝申し上げます。また、今後、新しく発足する組織につきましても、積極的にご参加・ご支援下さる様お願い申し上げます。

(研究会代表 橋本孝一)

【事務局から】平成30年度1月～2月 事務局連絡会議報告 & 事務局連絡会議への参加のお誘い

会の活動の活性化に向けて、事務局連絡会議の内容のダイジェスト版を会員の皆様にお伝えしています。今回は、1月と2月の事務局会議の内容です。

○1月事務局連絡会議

日時：平成31年1月7日（月）18：30～20：20

会場：福島高専専攻科棟1階 多目的講義室

出席者：11名

議事内容：

- ・年頭会長挨拶
- ・報告事項
 - (1) 事務局関係（会員の動向，ホームページの更新状況・アクセス状況）
 - (2) 事業・プロジェクト関係（12月の活動内容報告）
 - ① 平成30年度第2回幹事会開催報告
 - (3) 編集委員会関係（会報「ふいーど」132号の発送完了報告）
 - (4) 関連団体の活動状況（いわき環境研究室から）
- ・協議事項
 - (1) 第30回発表会について（当日の進行の確認，役割分担の決定）
 - (2) 会誌「EQUAL」31号の編集について（拡大編集委員会）
- ・その他
 - (1) お知らせ 1件（福島高専原子力規制人材育成事業・教育研究フォーラム開催）

○2月事務局連絡会議・拡大編集委員会

日時：平成31年2月4日（月）18：30～20：10

会場：福島高専専攻科棟1階 多目的講義室

出席者：9名

議事内容：

- ・報告事項
 - (1) 事務局関係（会員の動向，ホームページの更新状況・アクセス状況）
 - (2) 事業・プロジェクト関係（1月の活動内容報告）
 - ① 第30回発表会実施報告
 - (3) 会員個人の活動状況（各種会議への参加報告）
- ・協議事項
 - (1) 会誌「EQUAL」31号の編集について（拡大編集委員会）
 - (2) 2019年度の事業について
 - (3) 会報「ふいーど」133号の編集について

* いわき地域環境科学会事務局では、原則毎月第1月曜日の18時30分から20時50分（それよ

りも早く終わることもあります)に福島高専にて事務局連絡会議を開催しています。会の活動の状況を詳しく知ることもできますし、各自が考えていることを会の活動に反映させることも可能です。事務局連絡会議に関心のある方・一度出席してみようという方は、事務局担当の山田までご一報ください。皆様のご参加をお待ちしております。

次回の事務局連絡会議は、3月11日(月)18時30分からとなっております。

※次回は都合により 第2月曜日 の開催となります。

〈事務局担当〉福島高専 電気電子システム工学科 山田 貴浩

電話：0246-46-0800 FAX：0246-46-0807(学科共用)

電子メール：yamada@fukushima-nct.ac.jp

【会員の動きから】 一当会の会員がそれぞれの分野で活躍しています。

該当会員	時期・場所	主催所管	内容
鳥海陽太郎	H31.1.13 夏井川	日本野鳥の会 いわき支部	夏井川河口水域において、ガン・カモ観察会を行った。
鳥海陽太郎	H31.1.24 高久公民館	いわき市 高久公民館	高久の自然について、講演をした。
諸橋健一	H31.2.1 いわき市役所	総合政策部 政策企画課	いわき市総合計画審議会に出席し、審議した。

【リレーエッセイ】



多様な学習背景をもつ大学生への環境に関する授業での取り組み

山田 貴浩 (会員)

今年度、いわき明星大学において久しぶりに非常勤講師として授業を担当することになりました。前期は「統計のしくみ」、後期は「地球環境の科学」で、いずれも1年生を対象とした科目です。ここでは、後期に担当しました「地球環境の科学」の授業において取り組んだことを紹介したいと思います。

いわき明星大学は、数年前から薬学部や看護学部などの設置が続き、従来の総合的な学部構成から医療系の人材育成にシフトしてきています。今年度の1年生までは地域教養学部があり、今回の授業の受講生もほとんどが地域教養学部の学生でした。

私はこれまで理工学系の学生に対する授業の担当がほとんどでしたので、同大学で以前授業を担当した時も、高校や大学の低学年時に理系の授業を受講してきた学生が相手でした。今回担当する授業の受講生は普通高校から進学してきた学生が多く、また今後の進路も理系とは限らないため、授業で取り上げる内容や授業の方法、説明のしかたなどには、あまり専門的になりすぎないように気を付けました。

半期の授業の構成としては、前半で環境の基礎についての内容、後半では環境問題に対する取り組みや地球環境の計測、自然エネルギーの応用などを取り上げました。環境の基礎事項の学習では、学生に関心を持ってもらうために身近な例を取り上げたり簡単な実習を含めたりしました。

水環境の回では、私の職場（福島高専）の中にある池から採取した（あまり綺麗でない）水と、いわき明星大学の敷地内にある噴水の水受けから採取した水とでパックテストによる簡易的な水質評価をしてもらいました。また、海岸環境を説明した回では市内の複数の地点で採取した砂を用いて「鳴き砂」の音を出す体験をしてもらいました。そして、エネルギーの回では白熱電球・蛍光灯型電球・LED電球の表面温度をサーモグラフィで観察してもらい、各電球が消費する電力と熱の関係を視覚的に調べてもらいました。これらの実習は、当然ながら深く考察するには理系の知識が必要となりますが、感覚的に知ってもらう程度であればポイントを絞った説明を事前に行うだけでも講義の内容とリンクさせて考えてもらうこともできます。

また、多くの回ではグループワークとしてテーマに沿ったディスカッションをしてもらいました。テーマはあまり固いものとせず、日常生活と授業での学習内容を関連させて意見を述べられるようなものとししました。また、ディスカッションのテーマについては、授業の冒頭に「ウォーミングアップ」として各自で答えを考えてもらい、授業の後半のグループワークの際に各自の答えを出して話し合ってもらおうという形をとりました。テーマとしては、例えば「化石燃料」と聞いてどのようなことを思い浮かべますか、「川の上流と下流でどのような違いが考えられますか」、「子供の頃には見かけたけど最近あまり見かけなくなった植物や動物はありますか」など、なるべく個人の意見を答えやすいようなものとししました。その甲斐もあってか、グループワークでは各グループとも「意見が出なくて困る」ということは無かったようです。

そして、今回の授業の特徴の1つとして、毎回「振り返りシート」というものを学生に配布して授業終了時に回収、次回の授業で返却するようにしました。このシートは、毎回の授業の到達目標について受講前と受講後に自己評価してもらう部分、授業で分からなかったことについて質問を書いてもらう部分、担当教員への意見やコメントなどを書いてもらう部分で構成されています。

到達目標の自己評価のところは、90分の授業で学生が各自でどのようなことを理解できたのか見直すことを目的としています。この評価方法については、10年ほど前になりますが当会で20周年記念事業として行った「自然景観評価シート」を作成した経験が役に立ちました。「自然景観評価シート」では、評価者が対象となる景観を詳細に見る前に感じた評価と詳細に見た後で感じた評価の違いを知ること、自然景観評価を通した「学び」を実感できるように作成されました。この考え方を「環境についての授業」に導入したものです。

また、質問の部分については回答のコメントを書いて返却したほか、可能な限り次回の授業の冒頭で受講者全体に質問と回答を紹介しました。授業中には恥ずかしさもあってなかなか質問できない学生も、このシートによる文通のような形でのやり取りであれば質問をしてくれます。また、質問が出ればこちらとしても詳しく説明をする必要があるところや学生が分かりにくいところを把握することができます。はじめのうちは少なかった質問も徐々に増え、多くの学生が質問を書いてくれるようになりました。また、理系の学生の視点では見えないような内容の質問もあり、私も勉強になりました。

来年度も継続して授業を担当することになっていますので、今年度の経験をもとに、少しでも学生对环境に対する興味を高めてもらえるような授業を展開していきたいと思えます。



授業でのグループディスカッション時のようす

【リレーエッセイ】



マグロ初セリ狂騒曲

平川英人 (会員)

正月を迎えると、毎年決まって行う習慣があります。初日の出詣で、雑煮やおせちを食べて新年を祝うことと、箱根駅伝の観戦です。もう一つ関心を寄せているのは、マグロの初セリです。

平成31年1月5日朝5時半豊洲市場で小池東京都知事らの見守る中で初セリが行われ、大間産マグロが史上最高の3億3,360万円で落札されました。セリ落としたのは「すしざんまい」で有名な喜多村チェーンの木村社長でした。高値になった理由として、初物は高くても欲しいと思う人が多いこと、築地市場から豊洲市場に移動して初めてのセリでご祝儀の意味もあったこともあげられますが、なによりも宣伝効果の大きいことがあげられます。せっかく平成30年1月では7,500万円と高値ながら常識的な線に落ち着いたかと思いましたが、今年の値段は異常でした。初セリでなければ、同じマグロが200~300万円で取引されるそうです。

一般に魚は1kg単位でセルことが多いようです。問題のマグロの1kgの単価が120万円でセリ落とされ、体重が278kgでしたから3億3,360円になります。寿司1貫当たり2万2千円以上で販売しないと赤字になりますが、これを「すしざんまい」通常と同じの価格である赤身1貫158円で提供しました。随分な大盤振る舞いをしたものでしたが、1月5日から数日間あれだけテレビ局や新聞で取り扱われているのをみれば、宣伝費として安いものだという見方もあります。

メディアによく登場する初セリといえ、夕張メロンがあげられます。2018年5月には、2玉で320万円したそうです。夕張のメロン梱包業者が落札しました。一昔前には札幌の三越が数十万円で落札し、暫くの間ショウウィンドウに展示した後、ジュースにしてお客さんに提供したそうです。随分と高くなったものです。これらは夕張メロンのブランド化に貢献しているのは間違いありません。

マグロを漁獲した漁業者に3億3,360万円のうちどれだけ漁業者に支払われるか興味あるところですが、青森漁連に1.5% (500万円)、大間漁連に4%

(1,334万円)、荷受業者に5.5% (1,834万円) 渡るそうです。税金が最高税率の40%ですから、手取りで1億7,800万円になるそうです。漁連が、それだけの手数料を取ることは理解していましたが、荷受業者が1834万円も取るのは、驚きでした。また税金も高いことにも驚きました。

水産の世界では、ウナギやマグロの高級種が絶滅危惧種の指定される可能性があるなど、あまり明るい話題がなかったのに、今回は久しぶりに全国津々浦々の茶の間を流れる明るい話題でした。

2019. 3.1. No.133

発行：いわき地域環境科学会

福島工業高等専門学校

地域環境テクノセンター内

〒970-8034

いわき市平上荒川字長尾30

TEL. 0246 (46) 0837

FAX. 0246 (46) 0843

E-mail : mail@essid.org